

よこすか E C O 通信



第13号(平成26年6月)

発行: 横須賀市・環境教育・環境学習ネットワーク会議

「海」の様々な顔

「横須賀のイメージを1つあげてください」と言われたときに、「海」と答える人はどのくらいいるでしょうか。東京湾と相模湾に接し、三方を海に囲まれた横須賀市では、海は身近な存在です。しかし一言に「海」といっても、その指し示すものは様々です。海水浴やヨットを楽しむ場所としての海、生き物観察が楽しめる磯場、漁や釣りをを行う沖合、自動車などを運ぶ大型船が発着する港など。海は私たちとも多様な関わりを持っています。今回はその中でも、岸に近い、浅海域（せんかいいき）に注目します。

海の中をのぞいてみよう

「浅海域」は、水深の比較的浅い海域の総称で、干潟、砂浜、藻場なども含みます。魚や貝、海草や海藻*など、多様な生き物の生息地にもなっていて、自然環境保全の観点からもその重要性が認識されています。また、海草や海藻の光合成により酸素が多く、貝などの生き物のはたらきによって水質をきれいにする力が高いとも言われています。

浅海域には海草の一種であるアマモが群落をなす「アマモ場」があります。アマモ場は、魚などの海の生き物が卵を産んだり、生き物の子どもが育つ場所となることから、「海のゆりかご」と呼ばれています。

横須賀市には、東京湾側の走水や観音崎、相模湾側の佐島等に天然のアマモ場があります。東京湾側は埋め立てなどによる人工的な護岸が多い中で、自然海岸が残る走水は特に豊かなアマモ場となっています。最近では、このアマモ場を再生する活動が行われていて、東京湾内の再生活動では、走水のアマモのタネが使われることがあるそうです。



海の中 ～走水のアマモ場～
(横須賀市港湾部港湾企画課 提供)

海は身近な環境ですが、その中をのぞいたことはありませんか？海の中は私たちが知っているよりもたくさんの豊かな世界がひろがっています。普段は見えない海の中ですが、あらためて思いをはせてみてはいかがでしょうか。

*海草と海藻：種子によって繁殖するものが「海草」でアマモ、孢子によるものが「海藻」でコンブやワカメなどがあります。

(参考) 横須賀港浅海域保全・再生研究会(平成26年)「横須賀港における浅海域の保全・再生に向けた研究報告書」、

横須賀市環境政策部「海の生きもの」http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4115/sea_yokosuka/umi_ikimono/

(執筆協力) 横須賀市環境政策部自然環境共生課、港湾部港湾企画課

裏面には季節の生き物図鑑「海草」の掲載があります。

横須賀市自然・人文博物館

＝ 特別展示＝

「開館60年記念展 第Ⅰ部ヨコスカの宝」

深海に生息する「ミツクリザメ」の標本など、60年間に収集された貴重な資料を展示します。

日 時 7月19日（土）から9月7日（日）

場 所 横須賀市自然・人文博物館（本館）



＝ 夏休み企画 ＝

「潮だまりの生き物」

日 時 7月26日（土）9:30～12:00

場 所 天神島臨海自然教育園

定 員 20名（小・中学生。小学生は保護者同伴のこと）

費 用 参加費50円

締 切 7月12日（土）

申 込 希望者は、往復はがきに行事名・希望の日時・参加希望者全員（家族に限る）の住所・氏名・年齢・電話番号を往信面に、ご自分の住所・氏名を復信宛名面に記入し、博物館へ。

希望者多数の場合、市内在住者を優先。

問合先 横須賀市自然・人文博物館

〒238-0016 横須賀市深田台95 電話824-3688

横須賀うみかぜカーニバル2014

日 時 7月19日（土）、20日（日）

10:00～15:00（無料体験乗船会の受付は9:30開始）

場 所 うみかぜ公園（平成町）

内 容 ①スーパーキッズボート（エンジン付ゴムボート）などの無料体験乗船会

②横須賀海上保安部特設ブース（子ども用制服試着など）

③三浦半島“海とも”プロジェクトブース

④ミニボート展示及び横須賀海上保安部による安全対策実演

⑤稚魚の放流（19日）

⑥横須賀海上保安部による巡視船一般公開及び放水展示訓練（20日）

⑦パワーボートのデモンストレーション（20日） など

問合先 横須賀市港湾部港湾企画課 電話822-9802

海の観察会 ～海の中をのぞいてみよう～

①2014夏 長井の海の観察会

日 時 8月2日（土） 10:00～14:00 *荒天時は中止

場 所 長井高潮防潮堤 集合

費 用 シュノーケリング、または箱メガネでの観察1,000円（長井の地産のお弁当代、保険含む）

締 切 7月28日（月）

②2014夏 深浦湾の海の箱メガネ観察会

日 時 8月23日（土） 10:00～14:00 *荒天時は中止

場 所 ㈱リフレックス（浦郷町5-2931）集合

費 用 300円（保険含む）

締 切 8月18日（月）

【①・②共通】

定 員 15名抽選（小学校3年生以上）

問合先 よこすか海のガイドクラブ 川口

（兼申込） 電話090-2455-3461



市民大学ジュニアカレッジ

「空の博士の科学教室～そらの観測隊！」

日 時 8月2日（土）14:00～16:00

定 員 小学生30名抽選（2年生以下は保護者の送迎が必要）

場 所 防衛大学校（走水1-10-20）

（現地集合・解散）

費 用 保険料50円

締 切 7月22日（火）20:00必着

申 込 電話、来館、生涯学習センターホームページ、または通常はがき（講座名・住所・氏名・年齢・学年・電話番号を記入）で生涯学習センターへ。（市外在住の方は学校名と所在地も記入）

抽選の場合は市内在住・在学者を優先。

問合先 生涯学習センター

〒238-0046 西逸見町1-38-11 電話822-4873

URL <http://manabikan.net/>

日産自動車追浜工場 見学と環境勉強会

日 時 7月30日（水）・31日（木） 9:30～11:30

場 所 日産自動車追浜工場

内 容 ビデオ上映、工場見学、燃料電池車の話や模型での実験など

対 象 小学生（保護者同伴）

定 員 各回先着60名

申 込 7月11日（金）～23日（水）間の

月～金曜日9:00～17:00に問合先へ電話

問合先 日産自動車㈱追浜工場 電話867-5013



「自然ふれあい楽校」サマースクール2014 湘南国際村めぐりの森で自然と触れ合う、自然を学ぶ・考える。

	日時	プログラム	対象（募集人数）
①	7月19日（土）13:30～16:00	第3回三浦半島森づくりフォーラム「生物多様性と外来生物」	中学生以上（50名）
②	7月20日（日）10:10～15:00	環境カウンセラー養成支援講座	環境活動実践者（10名）
③	7月21日（月・祝）10:10～14:30	野原と小川の自然観察会	こども～おとな（20名）
④	7月22日（火）10:10～14:30	森の自然観察会	こども～おとな（20名）

場 所 ①・②湘南国際村センター、③・④湘南国際村めぐりの森

費 用 ①・②1,000円、③・④500円

申込期間 6月20日（金）～7月15日（火）*定員になり次第締め切り

申 込 内容番号（①～④複数可）と〒・住所・氏名・年齢・電話・FAX を往復はがき、メール、FAXのいずれかで送信

問合先 三浦半島「自然ふれあい楽校」 〒240-0105 横須賀市秋谷4575-2 野崎方

E-mail miurafureai@gmail.com TEL/FAX 046-857-8636



環境月間イベント

「体験してみよう！横須賀エコツアー」

6月14日（土）にショッパーズプラザ横須賀で、イベント「体験してみよう！横須賀エコツアー」を開催しました。これは6月の環境月間にあわせたイベントです。今年は、よこすかECO通信第12号でもお伝えした「横須賀エコツアー」について、ツアーのガイドを務める「おおくすエコミュージアムの会」、「観音崎公園フィールドレンジャー」、「猿島公園専門ガイド」の各団体による展示や、体験イベントが開催されました。

当日は、ショッパーズプラザにお買い物に来た方、乗り物フェスタに来た方など、お子さんを含めた多くの方が、イベントに参加してくれました。「横須賀エコツアー」は初めて聞く方が多いようでしたが、展示だけでなく、各団体が工夫を凝らした体験コーナーもあり、来場された方を楽しませていました。



スクリーンも遊びに来たよ！



展示コーナー

（左）：見どころを紹介した展示パネル

（右上）：猿島の砂から砂鉄をとってみよう！

（右下）：観音崎公園のジオラマを使ったクイズコーナー

体験コーナー

- （左）：レンガ積み体験。段ボールレンガで、「イギリス積」・「フランス積」に挑戦。
- （右）：ステージにシーカヤック登場！海気分が味わえました。
- （下）：フィールドスコープでバードウォッチング。双眼鏡でのシッパウォッチングの体験もありました。



横須賀エコツアーホームページ

<http://yokosuka-ecotour.jp/index.html>

各フィールドの案内や、ツアーの申し込みも行えます！

お知らせ

環境月間

「環境月間」は平成3年から環境庁（当時。現環境省）の呼びかけにより始まり、6月の1ヶ月間、全国で環境に関連した行事などが行われています。

「環境月間」は、6月5日の「環境の日」に由来します。「環境の日」は、1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められたものです。国連では、日本の提案を受けて6月5日を「世界環境デー」と定めており、日本では「環境基本法」（平成5年）で「環境の日」を定めています。

横須賀市でも、環境月間には上のようなイベントを行うほか、啓発ポスターの掲示や、パネルの展示等を行っています。

市立図書館 課題解決コーナー「環境」

今年は市内3図書館の「課題解決コーナー」でもこの月間にあわせて環境の特集を行っています！各図書館それぞれ異なるテーマで、特集していますので、期間中ぜひ足を運んでみてください。（課題解決コーナーの展示は5/23（金）～7/9（水）まで）

各館のテーマ

中央図書館…エネルギー問題について考えてみませんか
北図書館…暮らしの中での汚染
南図書館…We Love 自然環境



地球上の陸地の緑のほとんどは、花が咲き実をつける植物からなります。一方、海の中、特に磯ではコンブやワカメ、最近話題のアカモクなどの海藻が繁茂していますが、砂底や砂泥底では、ちょうど動物ではクジラやイルカがそうであるように、再び海中に生活の場を広げた海草と呼ばれる種子植物が群生し、アマモ場を作っています。種子植物は世界に約25万種ありますが、海草はそのうちのわずか60種余りにすぎません。

南北に細長く、暖流と寒流が沿岸を流れる日本列島周辺は海藻だけでなく、世界的にも海草の豊富な地域のひとつで、20種ほどの海草が分布し、三浦半島にも5種が見られます。このうち4種はアマモ科のアマモ、コアマモ、タチアマモ、エビアマモで、1種はトチカガミ科のヤマトウミヒルモです。

アマモ科はいずれも、リボン状または紐状の細長い葉をもち、エビアマモは短い根茎が磯にへばりつくようにして生え、ほかの3種は長い根茎が砂地や砂泥地の地中を長くはっています。砂浜に打ち上げられた緑色の細長い葉や、海水浴の折に足に絡んだことなどを思い出される方もいるのではないのでしょうか。

エビアマモ(図1)は久里浜の記録が残されており、5、60年前に埋め立てられた千駄ヶ崎などにはえていたものと推定されます。神奈川県内では現在、唯一稲村ヶ崎から七里ガ浜の沖合の岩棚で群生を見ることができます。

アマモは広く分布していますが、遠浅の海が埋め立てなどに伴い少なくなりました。市内では走水や観音崎、小田和湾で藻場をつくっています。

タチアマモ(図2)は日本では本州の東北部だけに見られ、三浦半島はほぼ南限にあたります。その名の通り、大きなものは6mほどに伸長し、アマモよりも深いところにはえ、観音崎や小田和湾で見られます。西海岸の漁師は昔からタカモと呼び、アオリイカや魚の産卵場となるので大事にしています。

コアマモ(図3)は長さ20~30センチで、干潟に藻場を作り、干潮時には砂泥地一面に干上がった状態で見るすることができます。市内では走水や小田和湾の南岸に分布しています。アマモ同様全国的に減少しています。

ヤマトウミヒルモはウミヒルモとされていた植物が最近の研究でいくつかの種に分けられ、三浦半島周辺に分布するのは本種とされています。ウミヒルモ類の多くは葉が小判形で長さは2~3センチです。小さくても地下茎を長くはって群生し、ジュゴンなどの餌になります。三浦半島は分布の北限に近く、小田和湾で見られます。

アマモ類は春に花をつけ、夏には米粒のような果実を実らせます。花には花びらもがくもなく、水中や水面で開花し、水の力で受粉します(図4)。東京湾の浅瀬に広くアマモ場が見られたころ、アマモの開花によって黄色い花粉が海面を覆い、一面が黄金色に染まって見えたほどだったそうです。



図1 エビアマモ
ひも状の葉が海中をたなびいている。

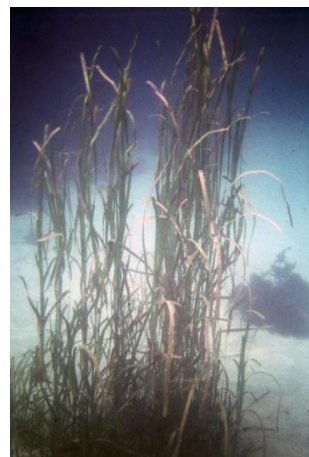


図2 タチアマモ 長さ4~5m



図3 コアマモ
中央の黄色い部分は花の集まり。



図4 アマモの開花
中央の花は花粉を放出している。

(横須賀市自然・人文博物館 大森学芸員)

みなさまからのECOな情報も募集しています。

発行: 横須賀市・環境教育・環境学習ネットワーク会議 協力: 横須賀市自然・人文博物館
(発行元) 〒238-8550 横須賀市小川町11番地 横須賀市環境政策部環境企画課

TEL: 046-822-8327、FAX: 046-821-1523、E-mail: ep-ep@city.yokosuka.kanagawa.jp

☆ HPは横須賀市HPから「ECO通信」で検索。(カラー版でご覧いただけます！)

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/4110/k-gakusyu/ecotushin/ecotushin.html>

この情報誌は、横須賀市環境教育・環境学習ネットワーク会議のトライアル事業の一環として発行しております。

「環境教育・環境学習ネットワーク会議」とは、市民・事業者・学校・行政等のさまざまな主体が集まり、連携して市内全体の環境教育・環境学習の推進を図るための会議です。

